

# 経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2131号

2012年10月01日(月曜日)

## 《 employment figures for September 》

マーケットを取り巻く環境が劇的に変化したわけではないので、相場レベルもそれほど動かない先週一週間でした。しかし、予想したとおりに株価はニューヨーク市場を中心に高値からの修正局面にあり、先週で二週連続の下げとなった。一方、為替はドル・円を含め円に関わるものは「おおかた円高」で推移した。明確な円高トレンドではなく揺れている印象だが、ドル・円相場は先週かなりの時間を77円台で過ごした。

「マーケットを取り巻く環境」としては、世界経済全体の冴えない景況、その中でのヨーロッパの債務状況の変化、特にスペインとギリシャでの相変わらずの一進一退の状況、それに出口の見えない日中の尖閣を巡る対立などです。こうした大枠で変わらないマーケット環境を動かす可能性がある指標が今週は発表される。その代表格は週末に発表される米9月の雇用統計でしょう。相変わらず弱いのか、それともFRBの政策効果もあって強く出るのか。

専らその雇用の弱さ故にFRBはQE3に踏み切ったが、発表時にこの措置を好感した株式市場の動きは直ぐに「景気に対する根深い疑念、金融政策の有効性に対する疑念」に取って代わった。むしろ今の株価は上値を終えない状況となっている。もっとも正式発表以前に措置を予想して株価が上がっていたという指摘は出来るし、株価のレベルが1万4000ドルの史上最高値レベルに接近したためにもう一段の上げには逡巡している、という見方も出来る。そういう意味では、「雇用拡大を狙ったFRBの政策の成果」を9月の雇用統計の数字に見ようという人も出てくるだろう。

今週はQE3を決めた経緯、各委員の考え方がもしかしら分かるFOMCの議事録の発表も予定される。既に報じられているように、FRBの中でも「これ以上緩和しても景気に対する刺激効果は少ない」という見方は多い。それをヴォーカルに主張するFOMCの委員や、委員にはなっていない連銀の総裁もいる。バーナンキは今後雇用統計が発表される度に、「自分の政策の正統性」を問われる事になるに違いない。

今週あたりから市場も少しは注目するかも知れないこととして、アメリカの大統領選挙がある。約一ヶ月先には投票が行われる。盛り上がりを欠く選挙戦になっている最大の理由は、「ロムニーは大統領に相応しい男か」というレベルの低い疑念が消えないし、彼の相次ぐ失言によってその疑念が強まっていることにある。直近の世論調査によれば、オハイオなど共和党の大統領候補が選挙を制する上で必ず勝たねばならないスイング・ステーツでの

彼の支持率は、オバマ大統領を二桁近く下回っている。ロムニー陣営の動揺が走っているとも伝えられる。

ロムニーがこの劣勢を挽回するためには、今週あたりから始まる二人の大統領候補者によるテレビ討論会でオバマを相当追い込む必要がある。オバマは演説がうまく、ロムニーは討論がうまいという意見もあり、そういう意味では盛り上がりを欠いた今年の大統領選挙での最後のヤマ場の可能性もある。しかし私の見方では「オバマ優勢」は動かない気がする。

### 《 changing landscape for Chinese workers 》

先週は iPhone5 の発売から最初のフルの一週間とあってこの世界的人気スマホに関する話題が多かったが、私が気になったニュースは中国での変わりつつある労働市場環境を示す事件です。これは今の中国が「世界の工場」という地位から脱皮しなくてはならない大きな曲がり角に立つことを示した。日中関係の悪化はユニクロのような例を別にして、日本の対中国投資に大きな影響を与えるだろうが、その面からも少し取り上げておきたい。

問題が起きたのは iPhone5 を受託して一挙大量生産しているのは台湾の Foxconn Technology Group (鴻海科技集團) の山西省太原市の工場です。アップルのこのスマホは21日に日本、アメリカなど9カ国で売り出されたあと三日間で500万台売れたと報じられている。鴻海など台湾の OEM メーカーはベトナムでそうだが、まるで一つの市が出来るような大きな工場 (この山西省太原市の工場は従業員7万8000人と伝えられる) を作り、そこで一挙大量生産をする。

当然だがそのコンプレックスの中には工場があり、そしてその工場で働く労働者の宿舎がある。私は、鴻海の工場をベトナムで見たが、驚くような大規模な工場だった。日本人が発想しないような。規模は「10万人が働く」といったものだったと思う。一式 (ジムから食堂まで) 揃っているという意味では良いが、全部ここに押し込められるのはどうなんだろう、「働く人も窮屈だろう」と思った。

この問題を報じたワシントン・ポストは暴動の発端に関して、新華社の報道を引用している。その部分は

[New details slowly emerging about the riot this week seemed to support those descriptions. According to witnesses and a report from the state-run China News Service—the most detailed official account of the riot to date—the incident was sparked by a clash between guards and workers at the factory in the central northern city of Taiyuan.

A large group of workers had been brought from other areas of China about a month ago to work on a large electronics order. When guards beat up workers from Shandong province, others from the same region fought back, igniting a full-fledged riot, according to the news agency's account.]

今回の鴻海の子会社工場での暴動に関してはいろいろな報道があったが、一貫しているのは「警備員が労働者を何らかの形で怒らせたことが発端」というものだ。そして重要なのは、ワシントン・ポストが「こうした暴動はまた起こる可能性が高い」としている点だ。その根拠は以下の通り。

1. ある電気メーカー（多分 Apple）の要請により、鴻海の山西省太原市の工場（子会社が経営）は新製品を大量に作るために大規模に労働者を約一ヶ月前に中国各地から集めた。大量受注をこなすためだ
2. しかし昔と違って、集められた労働者は比較的教育レベルが高く、以前のように「お金を貯める」「両親に送金する」ことだけを念頭に働いているわけではない。加えて中国では「労働者不足」が顕現化している
3. しかし工場の実態は、大量注文をこなすために時間外労働が著しく増え、労働者と労働者は話も出来ず、働き終えたら寮に帰って寝るだけの生活だ。そこで求められるのは教育でも技能でもなく、ただただ苛烈な仕事（intensity）の処理だけだ
4. 仕事が苛烈になるのは、異常な精度が求められたためだ。技術も急展開する中で新型モデルを組み立てる労働者の負担は増している。にもかかわらず、会社は仕事の苛烈さをどうマネッジするかノウハウを持たない
5. たまるのは労働者のフラストレーションだ。端的に言えばそれは労働者が参加意識とか幸福感を得られる場所ではない（“It’s definitely not a happy place,” he said.）

鴻海が子会社を通じて中国に持つ工場では「労働者の自殺」や「暴動」など数多くの問題が過去に生じたことは良く知られている。しかしこの記事によれば、労働者の大量動員、大量投入という鴻海の生産方式は、「高まる労働者の不満」という問題に的確に対応できていない、という。特に「警備員」と「労働者」の間のいざこざが頻繁に起こるとも伝えられている。今回もそうだった。実際に両者の間で何がきっかけかはまだ分かっていない。出身地をからかわれたのか、何か身体的な、または方言的な問題だったのか。

しかし労働者2000人と警備員が大規模に対立する事態となり、二人の重傷者が出ると同時に大量の負傷者も出た。武装警官5000人が投入されてやっと収まったというのが事態の深刻さを物語っている。鴻海は一連の事故をあと、「労働賃金の大幅引き上げ」などの対策を講じたと言われる。しかしまたちょっとしたことで（それは良く分からないが）、工場を一日止める事態になった。iPhone5を手にして喜ぶのは良いが、その機種の一挙大量生産・販売の裏側で大きな問題が生じていることは理解しておいた方が良いでしょう。

それはアップルの問題であると同時に、今まではそういう形で発展してきた中国の発展形態の問題でもある。中国は既に“低賃金国”の地位を失いつつあるし、「労働者をいつで

も大量に用意できる国」でもなくなりつつある。もしそうなった場合、「大規模投資→大規模工場→安い製品での世界への輸出→雇用の確保と成長維持」のシナリオが狂う可能性が高い。指導者が10年ぶりに代わる今年の全人代は11月に行われると発表された。しかしそこでトップに立つと見られる習近平を取り巻く環境は、彼のトップ就任の理由を誰も正確には語れないという“統治の正統性”の問題以上に、経済の面において厳しいと言わざるを得ない。

-----  
今週の主な予定は以下の通り。

10月1日(月)	9月日銀短観 9月軽自動車販売 9月自動車販売 中国PMI製造業 ユーロ圏8月失業率 米9月ISM製造業景気指数 米8月建設支出 休場/中国、香港、韓国
10月2日(火)	豪金融政策委員会 休場/中国、香港、インド
10月3日(水)	米9月自動車販売 米9月ADP雇用統計 米9月ISM非製造業景気指数 休場/中国、韓国
10月4日(木)	日銀金融政策決定会合(5日まで) スペイン国債入札 ECB理事会 米新規失業保険申請件数 米8月製造業受注 米FOMC議事録 休場/中国
10月5日(金)	白川日銀総裁記者会見 ブラッド米セントルイス連銀総裁が講演 米9月雇用統計 休場/中国

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。結構強いが、足早の台風でした。夜「風が強くなったな」と思っ

た段階で早めに寝て、午前零時前に一度起きたら既に風は収まり、空には明るい月に照らされて雲がたなびいていました。場所は山梨県の河口湖です。今週は中国が一週間休みですか。団体旅行のキャンセルは多いそうですが、個人客は来ているようで、「彼等は日本を良く知っている」と言える。

iPhone5 の話をもう一つしてしまうと、やっぱり地図ですかね。グーグルの地図を放逐しても「自分達が作った地図」を利用者に提供する、とまで言ったは良いが開けた瞬間にひどさが分かるものでした。よくあんなものを出荷したと思える白物。あまりにも酷かったので、最高経営責任者のティム・クック氏がアップルのHPの「利用者向けの謝り状」を掲載する始末となった。形状も良く、薄く軽くなってその他の部分では申し分ないスマホなのですが、大きなつまずきです。アップルの株価も高値からかなり反落して今週は始まる。

地図を除けば、私の iPhone5 に対する印象は以下の通りです。

1. 軽い、ちょっと長い、感触は良い、確かに綺麗に出来ている。「素早さ感」が印象として残る（塗装については結構問題があると聞いていたが）
2. 機能的な部分では、au のテザリングは LET が強く入るところでは、確かに速い。かつ「tfree.jp」のブラウザ接続も問題なくできるので良い。接続マシンとしては満足できる
3. バッテリーの持ちは比較的良い。しかし当たり前だがテザリングをしていると減りが速い。全体的に特に奇抜な、面白い機能は少ないが、ループ性はアップし、「世界的に売れるかも知れない」という印象は持てる

私の場合、既に「4S」で iOS6 を使っているのですが、多分初めてこのマシンを使った人は別の印象を持つかも知れない。他の製品とのループ度は iOS6 としてアップした。その中で「4S」と「5」の違いはテザリングくらい。ただ私としてはいくつかの要望がある。

1. やはり支払い機能は欲しい。SUICA と ID と EDY をアプリ対応にして入れられる環境を整えて欲しい
2. メールのダウンロードが遅いときがある。多分 LTE と WIFI の電波が入れ替わったりして、優先順位が安定しないからかも知れない。見ていると、3G と LTE が頻繁に入れ替わる場所もある
3. 初期的に何度かリブートしないと機能が安定しないケースもある

など。しかし全体的な印象を言うと、「売れるかも知れない」と思う。日本製などのスマホを比べると、手へのはまり具合、収まりが良いので、もっていても手に馴染む。それが女性達に人気が出る要因になると思う。あとバッテリーのもちが相対的に良い。

それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》